

令和7年度（2025年度）

朝霞市外部評価委員会の所見に関する検討結果

政策企画課

令和8年（2026年）2月

1 朝霞市外部評価委員会の所見に関する検討結果の見方について

- (1) 本資料は、令和7年度に作成した「朝霞市行政評価（外部評価）結果報告書」に基づき、各課において検討した結果について取りまとめたものです。
- (2) 「所見」は、外部評価委員会の意見を総括して記載したものです。
- (3) 「所見」のうち、外部評価委員から重点的に対応いただきたいと要望があったものについては、所見の「No.」を○で囲っています。

2 目次

◆ 将来像の基本概念（コンセプト）【安全・安心なまち】に係る所見に関する検討結果	P.2
◆ 将来像の基本概念（コンセプト）【子育てがしやすいまち】に係る所見に関する検討結果	P.4
◆ 将来像の基本概念（コンセプト）【つながりのある元気なまち】に係る所見に関する検討結果	P.6
◆ 将来像の基本概念（コンセプト）【自然・環境に恵まれたまち】に係る所見に関する検討結果	P.7
◆ コンセプト外（市民参画・協働、行財政）【基本構想を推進するために】に係る所見に関する検討結果	P.8

【安全・安心なまち】に係る所見に関する検討結果

基本概念	重視すべき事項	No.	外部評価委員会からの所見	所管課	次年度以降施策に反映させる内容又は今後の方向性等
安全・安心なまち	◆人にやさしいまちへ	1	特認校制度について、表現を工夫し、効率的に周知を行うなど、適切に制度が利用できるようなしてほしい。	教育管理課	特認校制度については、現在、リーフレットの配付のほか、保護者連絡ツールを利用するなど、対象となる児童・生徒のご家庭に向け周知しています。 表現の方法や効率的な周知については、現在の取組を継続するとともに、精査し、検討していきます。
		②	市内循環バスの利用者が少ない中で、維持していくことは大変だと思うが、今後も維持していけるような方策を検討する必要がある。	まちづくり推進課	令和6年度における朝霞市の市内循環バスの1年間の輸送人員は374,299人、収支率は42.2パーセントとなっています。 運転手不足を背景に全国各地において路線バスの廃止・減便が相次ぐなど、公共交通を取り巻く状況は厳しさを増していますが、今年度完成する第2次地域公共交通計画に基づき、交通ネットワークの維持確保に向けた様々な施策を実施していきます。
	◆支え合う心で安全・安心なまちへ	①	ホームページアンケートにおいて、「避難所に入れず自宅避難の場合、食料がいただけるのかとても不安」という意見が出ている。避難所に取りに来れば備蓄食料が配布されるのか明確にした方がよいのではないか。	危機管理室	在宅避難の方への食料については、避難所避難者と同様、拠点避難所での提供を計画しています。 一方で、食料の備蓄数量には限りがあるため、避難所避難者を含め、御自身で最低3日分、推奨で1週間分の御用意をお願いしています。 このことを併せて周知・啓発できるよう、今後も効果的な周知・啓発方法を調査研究していきます。
		②	避難行動要支援者への対応は、個人情報保護法により、その存在自体を知らせてはいけないという縛りがあるため、どこの自治体でも共通の課題である。そのような法的な縛りがある中で、朝霞市として、誰もができるような方策を検討し、対応してもらいたい。	危機管理室	避難行動要支援者への円滑な支援を目指し、避難支援等関係者(自治会・町内会、民生委員児童委員、地域包括支援センター、消防団など)に防災訓練等で日頃から情報が活用されることに同意した方を、「避難行動要支援者台帳」に記載し、各関係者に情報提供を行っています。 今後も、関係機関と連携を図りながら、制度の周知を図るとともに、新たな方策についても調査研究していきます。
		③	朝霞市がベッドタウン化していることで人口が増加し、宅地化が進んでいるが、照明がない場所が見受けられる。道路照明灯を年10箇所程度増やしているとのことだが、もう少し増やすことはできないのか。予算の制約がある中でも、優先順位を見極めながら、安全・安心なまちづくりを推進してもらいたい。	道路整備課	道路照明灯については、令和3年度から道路照明灯ESCO事業による包括委託契約を業者と締結しています。御要望いただいた場所については、職員が現地を確認し、周辺状況等を踏まえ優先順位をつけ、道路照明灯の設置の検討を行っています。 今後については、予算の制約はありますが、業者と協議を行い積極的に道路照明灯を設置していきたいと考えています。
		④	防犯パトロールカーを午後2時から午後10時まで運行しているとのことだが、犯罪が起きやすい深夜の時間帯の運行についても検討する必要があるのではないかと。	危機管理室	現在の防犯パトロールカーの運行時間については、下校時間帯から夕方、夜間にかけての子どもの見守りや、地域の犯罪抑止効果を主な目的として設定しています。 深夜帯の運行については、警察と連携し、より効果的な防犯体制を調査研究していきます。
		5	国民生活センターや埼玉県消費生活支援センターが土日や祝日をカバーしているとのことだが、市としても休日や夜間の相談窓口の開設を検討する必要があるのではないかと。	地域づくり支援課	国民生活センターや埼玉県消費生活支援センター、全国消費生活相談員協会などで開設されている土日や祝日の相談窓口は、平日のみ開設する市区町村の消費生活センターを補完していると認識していますが、市として休日や夜間の相談窓口を開設することについては、他自治体の動向を注視していきたいと考えています。
		⑥	居場所提供型の放課後子ども教室を六小と八小において今年度から開始しているが、他の学区の方から見れば不公平感が出てくると思う。今後、全学区に広げていくよう検討してもらいたい。 また、成人・高齢者向けの学習体制についても検討を進めてもらいたい。	生涯学習・スポーツ課	放課後子ども教室については、現在、第六小学校と第八小学校の2校で運営していますが、利用児童数が少ない状況が続いているため、利用方法の見直しを行い検証を行っているところです。今後は、先行実施している小学校の利用状況や費用負担等を踏まえて放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体型運営について検討をしていきます。 生涯学習事業については、どなたでも参加いただけるよう、様々な講座を開催しています。引き続き、市民ニーズの把握に努め、ICT等の活用により参加しやすい教室、講座の充実を図っていきます。
		7	上下水道の維持管理には非常に高度な知識と実行力が求められ、行政の素晴らしさを感じているが、残念なことに、地域で暮らしている方々に対するPR広報がほとんどない。もっとPRしてもよいのではないかと。	水道施設課 下水道施設課	上下水道事業では工事の際、工事場所の近隣住民に、工事チラシの配布と説明などを行っています。 なお、業務改善の一環として、より広く丁寧な広報活動を行うため、令和8年1月7日からSNSで、工事等の情報を含めた事業に関する情報の発信を開始しました。

基本 概念	重視 すべき 事項	No.	外部評価委員会からの所見	所管課	次年度以降施策に反映させる内容又は今後の方向性等
(続)安全・安心なまち	(続)◆ 支え合う心で安全 ・安心なまちへ	⑧	女性に対する事業ばかりではなく、男性に対する支援の検討も進んでおり嬉しく思う。今後も、平等という言葉が安易に使うことがないように推進してもらいたい。	人権庶務課	男性に対する支援については、担当部署へ日々寄せられる相談などから、その必要性を認識していますので、引き続きニーズや社会情勢などに応じた取組を行っていきます。また、男女平等の推進に当たっては、令和8年度から新たに「第3次朝霞市男女平等推進行動計画」を開始しますので、総合的かつ計画的に施策を展開していきます。
		⑨	LGBTQ等の当事者の方が、カミングアウトしている方ばかりではなくて、言いたくない方や、自分でも気づいていないという方もいらっしゃると思う。そういう方への対応も検討してもらいたい。	人権庶務課	性の多様性に関する理解促進については、広報やホームページへの記事の掲載、「あさか女(ひと)と男(ひと)セミナー」での講演などにより施策を進めています。カミングアウトに関わる行為として、アウトイング(本人の同意なく性的指向や性自認を暴露する行為)がありますが、人権侵害となる行為であり命に関わる行為となることがあるため、防止に向けて特に注意を払い取り組んでいます。一人ひとりが互いを尊重し合い、誰もが自分らしく生活できるよう、引き続き様々な機会を捉えて啓発に取り組んでいきます。

【子育てがしやすいまち】に係る所見に関する検討結果

基本概念	重視すべき事項	No.	外部評価委員会からの所見	所管課	次年度以降施策に反映させる内容又は今後の方向性等
子育てがしやすいまち	◆子育てしやすいまちへ	①	待機児童だった子どもたちが成長して小学生になり、放課後児童クラブが不足するというのは明らかに予測できた事態だと思う。枠を拡大することや別の受け皿を考えてもよいのではないか。	保育課	待機児童対策としては、民間放課後児童クラブの定員拡充と公設放課後児童クラブの定員の弾力的運用を検討するとともに、放課後子ども教室など、全ての児童に対しての放課後の居場所づくりについて、引き続き、関係部署と連携して取り組んでいきます。
		②	乳幼児のかかりつけ医を持っていない2割の方々の中で、緊急時にどう対応しようか考えていない方がいることが問題になると思う。アンケートを取っているのであれば、そういった方のその後の聞き取りがあってもよいのではないか。	健康づくり課	かかりつけ医に関するアンケートは、生後4か月児を対象にした健康診査の際に、その保護者に対して実施していますが、この時点では、約2割の方がかかりつけ医を持っていないことも考えられます。このため、緊急(救急)時の対応方法や上手なお医者さんのかかり方、また、いざというときの連絡先が記載されている「こどもの救急ミニガイドブック」(埼玉県発行)の活用について、今後も周知していきます。
	◆子どもたちがいきいきと育つまちへ	1	プログラム提供型の放課後子ども教室は、体を動かしたり工作をしたり、バラエティ豊かでとても楽しそうな印象を受けた。児童の反応もよいとのことなので、引き続き、児童や保護者のニーズを取り入れながら地域の人材を有効に活用してもらいたい。	生涯学習・スポーツ課	プログラム提供型の放課後子ども教室は、地域人材や団体の方々に御協力いただき実施しています。今後についても、引き続き、地域の人材や団体、企業等と連携し、実施していきます。
		2	プログラム提供型の放課後子ども教室は、学区によっては参加したくてもできない子がいると思うので、地域差のないような形でできないか検討する必要がある。	生涯学習・スポーツ課	子どもたちが様々なプログラムを体験できるよう、学区を考慮し、同じ会場で2年連続で実施しないよう努めています。今後についても、頂いた御意見を踏まえ、多くの子どもたちが参加いただけるよう努めていきます。
		③	子育て環境の課題を把握するため、若い世代が転出する理由を把握しておくことは市としても役に立つと思うので、検討していただきたい。	子ども未来課	本市を転出される方に対し「その理由」を伺った事例としては、政策企画課が、第6次朝霞市総合計画策定のための基礎資料とするために実施した「転入・転出意識調査」があります。今後、子育て施策を検討する際には、その調査結果も参考とします。
		④	子育てに関する行政手続きの電子化が進んでいない印象を受けたので、特に子育て分野のオンライン化を早期に進める必要があるのではないか。	デジタル推進課	本市では、朝霞市行政情報デジタル化推進方針の重点取組事項の一つとして「行政手続のオンライン化」を掲げ、国が「特に国民の利便性向上に資する手続」としている子育て関係(15手続)と介護関係(11手続)の26手続について、オンライン化に取り組んでいます。子育て関係では既に6手続のオンライン化が完了していますが、子育て関係手続のオンライン化は、市民の利便性に大きく寄与するものと考えますので、早期に実現できるよう引き続きオンライン化の支援に取り組んでいきます。また、国が指定する手続だけでなく利用の多い手続やオンライン化への制約が少ない手続も優先してオンライン化に取り組んでいきます。
		⑤	困難を抱える子育て家庭が、自分で言い出せないような環境にある場合は、周りの方が気にしていると思う。そういった方たちの声が拾えるような取組ができれば解決に繋がるのではないかと。	子ども未来課	子育て家庭が抱えている困難も一つではなく、ひとり親、疾病、障害、経済的困窮などの要因が複合している場合があります。また、アンケート調査から、困難を抱える子育て家庭では、相談先を知らないことや支援を求める声をあげにくい状況が見受けられることがわかってきています。このことから、市では地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の整備を行うため重層的支援体制整備事業の実施により、属性を問わず個人と地域、社会とのつながりが回復するような体制の整備を目指しています。今後も、保育所、学校などの各機関、子ども食堂やフードパントリーなどを行っている団体・企業や地域住民といった様々な方と連携し、困難を抱える子育て家庭が支援につながれるよう取り組んでいきます。
		6	成人式に新成人の方たちが成人式記念誌編集委員として関わっているのであれば、SNS等の活用についても議論ができるよう投げかけてもよいのではないか。	生涯学習・スポーツ課	記念誌編集員については、記念誌の作成と式典当日の進行、記念となる事業等について御意見・御協力をいただいています。今後は、SNS等のより有効な活用について、頂きました御意見を踏まえ、検討していきます。
		⑦	質の高い部活動を考えると、指導者の質がある程度求められると思う。地域の人材だけではなく、学校の先生も含め、生徒からのフィードバックをもらうことや、指導者のスキルアップのための研修を行うなど、フォローアップできるような体制を検討する必要があるのではないか。	教育指導課	質の高い部活動の実現には、指導者の一定の専門性や指導力が求められていると考えています。現在、今後の部活動の在り方については、「朝霞市部活動の在り方検討会議」において地域展開を見据えた検討を進めており、その中で指導者の質と量の確保は重要な課題の1つとなっています。このため、地域人材に限らず、学校教職員も含めた指導者を対象に、研修の充実などスキルアップを図る仕組み作りも検討しています。また、現行の地域人材活用については、不適切と判断した場合には、年度の途中であっても解任できる仕組みとしていますが、生徒からの声や意見をどのように反映していくかについては、今後の検討課題として引き続き整理していきます。

基本 概念	重視 すべき 事項	No.	外部評価委員会からの所見	所管課	次年度以降施策に反映させる内容又は今後の方向性等
(続)子育てがしやすいまち	(続)◆子どもたちがいきいきと育つまちへ	⑧	学校給食について最近、特に感じられることは、とにかく量が少ない。成長盛りの子供たちに食に困らせるようなことはあってはならず、栄養的にも量的にも満足させた状態を作ってあげたいので、充実に向けた活動を進めていただきたい。	学校給食課	近年の物価高騰により、令和6年10月から令和7年6月までの間、月に数回、副菜を一品減らす対応を行ったこと等により、給食の質と量が十分でない時期が存在しました。令和7年10月に給食費の改定を行い、給食の質と量について改善を図りましたが、今後、更に物価高騰が続く場合等には、可及的速やかに給食費の改定を行い、児童生徒の給食の質及び量に不足が生じないよう対応していきます。
		⑨	学校応援団は、子どもや保護者だけではなく、多世代交流というまた別の意味も出てくると思うので、ぜひ続けていただきたい。	教育指導課	学校応援団は、学校と地域・保護者をつなぐ重要な取組であると認識しています。今後もその趣旨や成果を学校と共有しながら、多世代との交流も視野に入れて、継続・充実に努めていきます。
		⑩	今は個人でスマホやパソコンで調べられる状況なので、司書や学芸員に求められるのは高い専門性だと思う。日々の業務があり、人数も限られているのはわかるがスペシャリストの養成に取り組んでいただきたい。	図書館 文化財課	司書資格を有する専門職の適正配置を継続するとともに、経験年数などによる専門性の差も出やすい業務となるため、職場内研修の充実や外部研修への積極的な参加等により、スキルアップに努めていきます。 学芸員の配置・育成についても、関係各所との連携を進めていきたいと考えています。
		11	本を図書館で借りる際に、自分が聞きたい情報をどの職員に聞けばよいか迷うことがある。例えば、ホームページに職員の名前と専門としていることが記載していれば、事前に調べることができ、利便性の向上に繋がるのではないかと。	図書館	児童書や一般書など、分野ごとに担当者を決めて蔵書管理等を行っていますが、シフト勤務の関係で勤務日や時間が一定ではないことから、特定の職員へのお問い合わせは難しい状況となっています。 そのため、お探しの本の配架場所など簡単なことであれば、お近くの職員に、少し複雑になるようであれば、レファレンスカウンターの職員に、お気軽にお問い合わせください。

【つながりのある元気なまち】に係る所見に関する検討結果

基本概念	重視すべき事項	No.	外部評価委員会からの所見	所管課	次年度以降施策に反映させる内容又は今後の方向性等
つながりのある元気なまち	◆つながりのあるまちへ	1	関心のあることについてアンケートを実施し、世代ごとにまとめて児童館に掲示するなど、直接的な交流以外の方法でも多世代との距離を縮めていく仕掛けを検討していただきたい。	長寿はつつ課	多世代交流は、イベント等で直接顔を合わせる機会に限らず、日常の中で互いの関心や価値観を知り、親しみを持つきっかけづくりが重要であると認識しています。今後は、頂いた御意見を参考とし、児童館等の関係施設や担当部署と連携しながら、直接的な交流以外の手法も含めた取組について検討していきます。
		②	現在、児童館で行われている取組は、高齢者が若い世代に教える構図が多いと感じるので、多世代が一緒に楽しんだり、若い世代から高齢者に教えたりするイベントがあってもよいのではないかと。	長寿はつつ課	世代間交流ができる取組として、令和7年度は老人福祉センター利用者と児童館利用者を交えたハロウィンやクリスマス会でのダンス発表やプレゼント交換、ビンゴ大会や昔遊びを実施しました。今後も老人福祉センターと協議しながら、様々なイベントを企画、開催していきます。
		③	学校教育の中の学びだけではなく、社会で生きていくための力を取得することが必要とされていると思う。そうした力を学べる取組を様々な観点から検討していただきたい。	教育指導課	学校教育における教科学習に加え、社会の中で主体的に生きていくための力を育成することは、今後ますます重要になると認識しています。このため、生活科や総合的な学習の時間を核とした「探究的な学び」を、市を挙げて推進していくこととしており、令和7年12月に探究的な学び推進リーダーを各校から任命し、準備を開始しました。学校内に閉じた学びにとどまらず、地域や社会とつながりながら、学びが学校外にも広がっていくよう取組を始めた段階です。 探究的な学びを通して、子供たちが社会で生きていくために必要な力を身に付けられるよう、内容や方法等について、引き続き検討・充実を図っていきます。
		④	住民が利用するシステムの改修は、操作する現場の方の意見や利用者の意見が重要なので、改修を実施する際は、そういった方々の意見も聞きながら進める必要がある。	デジタル推進課	今後のシステムの更新の際には、選定の段階で意見を参考にしながら利便性と現場のニーズに応じたシステムの構築を目指していきます。
		⑤	市内循環バスは、TMGあさか医療センターに行くために利用する人が多いと思うので、全体的に満遍なく運行するよりも、診療時間に合わせて重点的な運行時間を設けてもよいのではないかと。	まちづくり推進課	市内循環バスは、市内の公共交通機関の不便な地域の解消、公共施設の利用促進、通勤・通学の便の確保を目的に4路線を運行し、そのうち2路線がTMGあさか医療センターに乗り入れています。 TMGあさか医療センターの診療時間に合わせた重点的な運行を設けた場合、病院へのアクセスは向上する一方、別の地域では運行間隔が長くなることにより運行本数が減少する恐れがあるほか、病院の無料のシャトルバスが1日合計で75本運行していることから、現状においては検討していません。
	◆元気なまちへ	①	生活保護について、複数の病院を受診することで過剰な薬を処方されるなど、医療費を不正受給している話を聞いたことがある。本市だけの問題ではないと思うが、市の歳出としても小さくない割合を占めるので、生活保護費の適正な執行に努めてもらいたい。	生活援護課	月の中で一定以上の日数を通院したり、同じ病状に対して複数の病院に通院する方については、頻回受診者としてケースワーカーが状況確認の上必要な指導を行っています。また、嘱託医審査やレセプト点検により専門的観点からもチェックを行っています。今後も受給者の皆様には適切に医療等の受診を行っていただけるよう周知に努めます。
		②	地域の賑わいのためには商店街の活性化が不可欠である。今後の商店街の活性化の参考とするため、補助金を使って新規出店した店舗にその後の状況等をヒアリングしてはどうか。	産業振興課	空き店舗リフォーム資金補助金の利用者に対するの追跡調査について、実施を検討します。

【自然・環境に恵まれたまち】に係る所見に関する検討結果

基本概念	重視すべき事項	No.	外部評価委員会からの所見	所管課	次年度以降施策に反映させる内容又は今後の方向性等
自然・環境に恵まれたまち	◆自然・環境がいきるまちへ	1	CO ₂ 排出量の削減のためには、周知啓発活動だけでは限界があると思う。ペナルティを課す、もしくはインセンティブを与えるなどの働きかけも必要ではないか。	環境推進課	CO ₂ 削減には、市民、事業者、行政が一体となって取り組む必要があり、今年度中にカーボン・ニュートラル宣言を行い、更なる周知啓発を図っていききたいと考えています。また、CO ₂ 排出量削減にかかるインセンティブについては、国において補助や税制優遇の強化の動きがありますが、市においては、創エネ・省エネ設備設置費補助事業を継続して実施していきたいと考えています。
		2	あさか冬のあかりテラスは、市民に浸透しつつあると感じる。イベントの魅力はあるので、点灯式の日以外もキッチンカーを常設するなど検討してはどうか。	みどり公園課	キッチンカーの常設については、衛生管理や交通安全の課題が懸念されるため、慎重な議論が必要となります。今後も点灯式の日以外の賑わいを支えられるよう努めていきます。
		③	あさか冬のあかりテラスの一環として、ぼぼたんのフォトコンテストが開催されていたが、景品の説明などが見つけられなかった。せっかく開催するのであれば、もう少し分かりやすくした方が、イベントが盛り上がると思う。	みどり公園課	フォトコンテストについては、インスタグラムに投稿された作品の中から優秀賞・入選作品を決定していますが、投稿者への景品等は設けていません。開催の周知については、市ホームページ・都市建設部のインスタグラム等で告知しています。今後も、より広く周知できるよう努めていきます。
		④	農業の振興は、本市だけではなく、日本全体の課題だと思ふ。特に、地方でも農業の担い手が減少し、今後ますます都市部の農業の発展が重要になっていくので、力を入れて取り組んでいただきたい。	産業振興課	都市農業の特性を生かし、農産物直売への支援や、地場野菜振興事業費補助金をはじめとした各種補助金の交付を行っているほか、農業祭・農業体験・市民農園事業を実施することで、市民に農業・地場野菜に対する理解を深めてもらう取組を行っています。今後も各種事業に取り組み、都市農業の推進を図っていきます。
	◆歴史や伝統がいきるまち、魅力ある文化を創造するまちへ	①	市民スポーツ大会に参加したことがあるが、自治会・町内会のためのスポーツ大会という印象が強い。多くの市民が参加できるようなスポーツ大会に変えてもらいたい。	生涯学習・スポーツ課	多くの方に参加いただけるよう、当日参加できる種目があることや、賞品の当たるくじの配布やクイズを実施するとともに、見て楽しんでいただけるよう、朝霞市に活動拠点のある実業団の選手によるエキシビジョンなどを実施しています。今後もSNSや市のHP等を活用し、事業周知に努めていきます。
		②	民間のスポーツジムやフィットネスクラブには、スポーツに興味がある方が集まると思う。そういったところに市民スポーツ大会やロードレース大会の周知を依頼してもよいのではないか。	生涯学習・スポーツ課	頂いた御意見を参考に、より多くの市民に事業に参加いただけるよう、周知に努めていきます。
		③	基地跡地のような朝霞市にしかない資源を大事にするとともに、今後の利活用について検討してもらいたい。	政策企画課	基地跡地については、「基地跡地利用計画」や「基地跡地公園・シンボルロード整備基本計画」に基づき整備を進めることとしていますが、用地取得や整備には多額の費用を要するため、市の財政状況や他の事業とのバランスを踏まえ検討を進めていきます。また、土壌汚染対策や埋設物への対応、国有地の処分条件の緩和等について、引き続き、国と協議を行っていきます。
		④	博物館で開かれる講座は無料のものが多く、施設の運営のことを考えると、材料費ぐらいは徴収してもよいのではないか。	文化財課	今後においては、材料費等の徴収等を考えていきます。
		⑤	彩夏祭のポロシャツは、時期が近くなると市役所職員や関係者が着ている印象が強く、一般の方が着ているところをあまり見ないので、若年層の方に喜ばれるような観点でグッズの検討をしてもらいたい。	地域づくり支援課	朝霞市民まつり「彩夏祭」でのグッズ制作については、主催である朝霞市コミュニティ協議会（朝霞市民まつり実行委員会）が決定するものとなっています。当課も事務局として携わっていますので、頂いた御意見を市民まつり実行委員会に伝えます。
		⑥	黒目川花まつりやアートマルシェなど、四季のイベントが多くあるが、中学生から大学生までの年代の参加者が少ない印象がある。来場者としてもそうだが、運営側としても若年層が参加できるような働きかけをしてはどうか。	産業振興課	冬のイベントの1つである産業フェアでは、高校生が主体となったワークショップを行っているほか、今後、主催の朝霞市商工会においてSNSを活用した周知にも取り組みたいと考えています。

【基本構想を推進するために】に係る所見に関する検討結果

基本 概念	重視 すべき 事項	No.	外部評価委員会からの所見	所管課	次年度以降施策に反映させる内容又は今後の方向性等
基本 構想を 推進する ために	◆ 市民 参画・ 協働	①	趣味の延長に生涯学習があると思うので、好きなこと、やりたいことを続けていける場を充実させてほしい。	生涯学習・ スポーツ課	「いくつになっても学び続けられる、生涯学習の仕組みをより強化」する取組として、子どもからお年寄りまでニーズに応じた学びの場を設けるとともに、ICTを活用した情報発信や、インターネットやデジタルデバイス等を用いた講座など、だれでも・どこでも参加できる生涯学習の取組を進めていきます。 また、大規模改修の際には、利用者の御意見を伺いながら、使い勝手の良い学習環境を提供できるよう、社会教育施設の改修を計画的に進めていきます。
		②	「市民活動支援ステーション・シニア活動センター」がシニアに特化した場のように感じられ、名称に違和感がある。幅広い年齢層の利用に繋げるためにも、市民とシニアを分ける必要はないのではないか。	地域づくり支援課	市民活動支援ステーションは、市民活動の高まりからそれらに対応するために平成19年4月に設置したものです。その後、団塊の世代を中心としたシニア世代がこれまで培った知識や経験、能力を地域活動に生かす環境を整備する目的から、平成22年に市民活動支援ステーションにシニア活動センターを併設する形で設置しました。 今後も、市民活動とシニア世代、それぞれの活動を支援していきます。
		③	広聴事業で市政モニター等を行っているが、回答しただけで終わってはいけないと思う。関係を円滑にし、意見を言いやすくなるという好循環に繋げるため、その後のフォローが必要ではないか。	市政情報課	市政モニターで頂いた意見や要望は、後日、取りまとめ市役所内で情報を共有しています。また、取りまとめ結果は、市ホームページで公表しています。 今後は、頂いた意見や要望の活用事例について、ホームページ等での公表について検討していきます。
		④	朝霞市の魅力を発信するために、YouTube等のSNSを活用しているが、ただ発信しているだけでなく、登録者数等の数値目標を設定して取り組む必要があるのではないか。	シティ・ プロモーション課	Xについては登録者数等の数値目標を立て、事業を進めています。その他、各種SNSについても数値の変動の推移を意識しながら、シティ・プロモーションの視点を取り入れ、各SNSの特徴を生かした情報発信に取り組んでいます。
		⑤	市のホームページは見づらいことが多い。携帯で見るとを想定したホームページづくりが必要ではないか。	シティ・ プロモーション課	朝霞市ホームページは、スマートフォンで閲覧する際には、スマートフォンに対応した表示となるようにしています。また、アクセシビリティに配慮してホームページの作成を行っています。今後は、引き続きさまざまな人にとって分かりやすいホームページとなるよう努めていきます。
	◆ 行 財政	①	市役所内のトイレが狭くて暗いので、とても利用しづらい。洗面所として利用する方もいるので、誰もが利用しやすいように改善してもらいたい。	財産管理課	令和8、9年度に予定している、庁舎の長寿命化改修工事に先立ち、現在、実施設計に取り組んでいます。 工事対象にはトイレの改修も含まれており、便器の洋式化やレイアウトの変更、また、職員の利用方法についても見直すなど、誰もが利用しやすいトイレとなるように努めます。
		2	図書館や公民館をはじめ、公共施設の照明が暗く感じる。省エネの必要性はわかるが、もう少し利用しやすいように改善してもらいたい。	財産管理課	照明の運用については、施設毎に適切な運用に努めています。施設所管課と情報を共有し、検討・改善に努めます。
		③	市の会議の資料は紙媒体が多く、大量の紙を使用している。紙やインク、送料、発送作業ということを考えると、早期に電子化・オンライン化を進める必要があるのではないか。	デジタル推進課	行政運営の効率化と環境負荷軽減等を目的として、会議資料の電子化・オンライン化の推進に取り組んでいます。紙資料を主に使用している会議も依然として多いことも認識しています。 電子化・オンライン化を進める上では、必要な環境が整備されていない参加者への対応やセキュリティ確保の観点、オンライン化を行うための環境整備などの課題もあるため、今後はこれらの課題の解消を図りながら会議資料の電子化・オンライン化を一層推進していきます。
		④	機能的な組織づくりと人材育成を行う上で、職員が何を求めているかアンケートを実施してもよいのではないか。	職員課	令和7年11月に、「働き方に関する職員意識調査」として、全職員を対象にアンケート調査を実施しました。アンケートの主たる目的は、朝霞市特定事業主行動計画の次期計画の策定の参考にするためでしたが、それ以外の質問項目も設けることで、職員が求めている取組の実態を把握することができました。今後、アンケートの結果を分析し、職員の更なる働き方改革の推進に役立てていきたいと考えています。